

# 株式会社 三木製作所

## 2021年度環境経営活動レポート

(対象期間:2021年10月~2022年9月)



大阪の元気!ものづくり企業



作成日: 2022/12/16

# 環境経営方針

## <環境理念>

株式会社三木製作所は建材関連の金型・エンボスロール製作技術を通し、顧客である建材メーカー・素材メーカーの環境型商品の開発をサポートすることにより地球環境保全に貢献すると共に、全社員が地球環境保全の重要性を認識し、事業活動において環境保全に積極的に取り組み、循環型社会の構築に邁進します。

1. 次の事項について環境経営目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)

- ・電力使用量の削減
- ・自動車燃料使用量の削減

②廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)

- ・一般廃棄物、産業廃棄物の削減

③排水量の削減(水資源の保全)

- ・水道水使用量の削減

④品質管理(クレーム・手戻り品の削減)

- ・材料、輸送、機械稼働に伴う電力使用等のロスを削減

⑤省エネ型成型機、成形型の開発・販売促進

⑥化学物質の適正な管理

⑦事務用品のグリーン購入

⑧社会貢献

- ・工場周辺の緑化活動・清掃活動の推進

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. この環境経営方針を全従業員に周知・徹底します。  
また環境教育を徹底することで、従業員の環境意識向上に努めます。

4. この環境経営方針および環境レポートはホームページ等を活用し、社外に公表します。

制定日：2012年6月29日

更新日：2020年10月1日

代表取締役社長 三木 繁親

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 三木製作所

代表取締役社長 三木 繁親

(2) 所在地

本 社 大阪市西淀川区大野 1-2-20

技術開発センター 大阪市西淀川区大野 1-7-28

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役 三木 繁親 TEL:06-6473-3414

担当者 取締役 三木 元親 TEL:06-6473-3414

(4) 事業内容

精密金型の製造・販売

主要製品: 建材金型・エンボスロール・デザインモデル

(5) 事業の規模

製品出荷額 102.4百万円(税込み)(2021年度)

主要製品生産量 エンボスロール34本 プレス型41面

	本社	技術開発センター
従業員	5名	1名
延べ床面積	455.64㎡	386.91㎡

(6) 事業年度 10月～9月

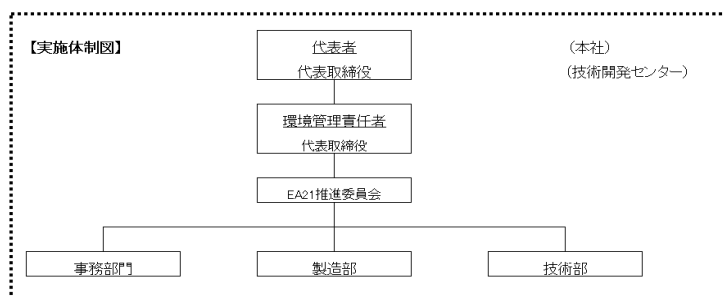
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社 三木製作所

対象事業所: 本社、技術開発センター

活動: 精密金型の製造・販売

(7) 実施体制図



## □環境負荷の推移

項目		2010年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	104361	140807	91053	98595	96594	90835
一般廃棄物排出量	kg	3848	2082	3005	2361	1563	1986
水使用量	m	84	112	78	72	82	93

注1: 二酸化炭素総排出量に都市ガスが含まれております。

注2: 産業廃棄物(段ボール・缶・金属くず等)は資源ごみとして再利用しております。

## □環境経営目標及びその実績

項目	年度	基準年度 (2010年度)	2021年度 上段: 通年		2022年度	2023年度	
		(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	
電力使用量の二酸化炭素排出量 削減	kg-CO2	96,232	87,571	84,996	86,609	85,646	
	出荷高(万円)	9,501		10,243			
	基準年度比		91%	88%	90%	89%	
	原単位(kg/万円)	10.1	9.2	8.3	9.1	9.0	
	原単位基準年比		91%	82%	90%	89%	
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	8,096	7,367	5,839	7,286	7,205	
	基準年比		91%	72%	90%	89%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	104,328	94,938	90,835	93,895	92,852
基準年度比			100%	91%	87%	90%	89%
一般廃棄物の削減	kg	3,848	3,502	1,986	3,463	3,425	
	基準年比		91%	52%	90%	89%	
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	84	76	93	76	75	
	基準年比		91%	111%	90%	89%	
品質管理 (クレーム・手戻り品削減)	件	0	0	8	0	0	
	基準年比		100%	0%	100%	100%	
製品への環境配慮 (製品出荷数に占める環境配慮製 品の割合)	%	50	50	27	50	50	
	基準年比			54%	100%	100%	
溶剤の適正管理 (チェックリスト法)	回	12	12	12	12	12	
	基準年比		100%	100%	100%	100%	
グリーン購入	品目数	6	14	14	15	16	
	基準年比		233%	233%	250%	267%	

※平成25年度電気事業者別二酸化炭素排出係数: 関西電力株式会社 0.522kg-CO2/kWh

## □環境経営活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

○達成できた △一部未達成 ×未達成

取り組み計画	目標達成/ 未達成	次年度 目標値	評 価(結果と次年度の取組内容)
<b>電力使用量による二酸化炭素排出量の削減</b>			
数値目標	○	90%	基準年度比、売上は98%、原単位換算で4%減
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	継続	電力使用負荷の高い製品群の受注が続いたため、電力消費量の大幅な削減とはならなかった。継続して、省エネ・高効率な空調管理に取り組むことで負荷低減を目指す。
・空気圧縮機のエア圧力設定変更	○	継続	
・水銀灯蛍光灯をLEDに切り替え	○	継続	
・クールビズ・ウオームビズの推進	○	継続	
・窓・FRP壁面の断熱工事を継続	○	継続	
<b>ガソリンによる二酸化炭素排出量の削減</b>			
数値目標	○	90%	基準年度比原単位換算で26%減
・自社便での配達から混載便での出荷へ変更	○	継続	トラックの買い替えや自社便利用回数の抑制の効果が出ている。目標達成に向けて、今後も継続して取り組む。
・公共交通機関により社用車の使用削減	○	継続	
・アイドリングストップ車導入	○	継続	
・省エネ車の導入 2台目	○	継続	
<b>一般廃棄物の削減</b>			
数値目標	○	90%	基準年度比48%の削減
・材料取りの工夫で廃棄物を削減	○	継続	作業標準で基準年度の48%の削減成果。継続して無駄な廃棄物を減らす努力を継続して行なう。
・資源ごみのリサイクル化	○	継続	
・注型レベル精度UPによる廃棄物の削減	○	継続	
<b>水使用量の削減</b>			
数値目標	×	90%	基準年度比11%増加
・ホースに手元バルブをつけて流し放ち防止	○	継続	金型洗浄作業時の工程改善を行い、節水に努める。
・節水タイプのトイレに更新 本社1、2F	○	継続	
・水漏れ確認	○	継続	
<b>品質管理</b>			
数値目標	×	0件	8件発生
・クレーム・手戻り品の削減	×	継続	新たに品質管理書を作成。過去トラの共有と発生防止対策に全社で取り組む。
<b>製品への環境配慮</b>			
数値目標	×	50%	
・独自の樹脂製金型技術で型のリサイクル	○	継続	展示会や日々の営業活動において環境配慮製品PRIに努める。
・省エネ型の新工法成型機・成型型の拡販	×	継続	
・省エネ設計・省エネ機器の採用	×	継続	
<b>溶剤の適正管理</b>			
数値目標	○	12回	
・溶剤の適正管理の徹底	○	継続	毎月実施。
<b>グリーン購入</b>			
・品目数の向上	○	継続	継続してエコ商品、備品の優先導入を進めます。
<b>社会貢献</b>			
・会社周辺の清掃活動	○	継続	毎朝工場周辺の清掃・緑化エリアへの散水を継続実施する。
・工場の緑化推進	○	継続	



□法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理委託
騒音・振動規制法	空圧機、(7.5KW空気圧縮機3基 設置届け申請受理済 2012/8/23)
フロン排出抑制法	業務用空調機、エアドライヤの廃棄時適正処理、簡易点検
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃棄時リサイクル
Nox・PM法/大阪府条例	トラック、バンの排気ガス規制/流入車規制
家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫等のリサイクル
消防法	少量危険物貯蔵の届け出

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

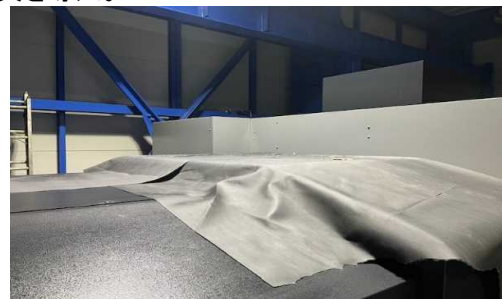
□代表者による全体の評価と見直し

今期通年度10期目の活動を実施し、結果を確認しました。今期の売り上げは前期比1.1倍と増加、機械稼働率は0.8倍と減少しました。製品の受注傾向は温度管理が必要となる大型の金属ロールやプレス型の割合が多い影響もあり、エアコンの稼働率は引き続き高い水準が続いています。電力使用量については目標に対して達成率103%、原単位基準年度比では4%減少の結果となりました。その他の項目については一部を除いて目標を達成しており、取り組みを継続していく効果が出ていると感じました。目標未達成の項目は品質管理と水使用量となりました。前々年より項目設定した品質管理については不良の発生件数が8件となり、前年より減少はしたが目標には届いていません。新たに社内で品質管理書を策定し、過去トラや発生防止対策の共有を進めていきます。水使用量については今期金型洗浄の受注があったため、通常より多い使用量となった。今後に向けて節水を前提とした金型洗浄のプロセスを検討します。工場環境においては、防音対策と高効率加工の両立を目指して高速回転治具の2台目を導入しました。今後それらの効果確認と更なる改善に取り組んでいきます。来期以降も環境マネジメントシステムは変更無く継続運用し、自社経営課題の解決と目標達成に向けて取り組みます。

社内の廃材を活用。顧客へエコな試作開発を提案し、リサイクル製品の販売促進を実施。



周辺環境に対する騒音対策として2台目の高速回転治具を導入。



代表取締役社長 三木 繁親